

「STREET RAMBLER」

なかふじ たけひこ
中藤 毅彦

第24回 林忠彦賞



「ニューヨーク」より

受賞記念写真展

周南市美術博物館

5月15日(金)～24日(日) 入場無料

9時30分～17時(入館は16時30分まで)

2003年イラク侵攻。電光掲示板にニュースが流れ、闇夜に星条旗がはためく。背筋に冷たいものがはしる。写真家は、その時、当事国のニューヨークで取材中だった。まさに路上にいまの世界が映っていたのだ。(上掲写真)

第24回林忠彦賞は、2002年から2014年までハバナ、ニューヨーク、モスクワ、上海、パリ、ベルリン、東京と東西を代表する7つの都市を順にめぐりそれぞれの「いま」をとらえた写真集『STREET RAMBLER』が受賞した。作者は中藤毅彦さん。1970年東京生まれ。44歳。高校時代からロックアーティストの写真を撮る。その勢いで写真学校を目指すが親の反対で断念、早稲田大学第一文学部に進学した。しかしそこでも写真部に入り暗室作業に没頭、またぞろ写真の虫が騒ぎだした。

今度は明確な目標があった。ストリートフォトの大家、森山大道その人だ。当時、東京ビジュアルアーツ写真学科で教えていた。居ても立てもいられず、大学は中退、すぐさま森山ゼミに入った。そして同時に作品も発表し始めた。とはいうもののこの頃は、どうしても森山先生のスタイルが拭いきれなかった。

2000年には、制作したらすぐに発表できるようにと自主ギャラリー「ニエプス」も立ち上げた。そして、2001年写真集『Winterlicht』を出したあたりから中藤さんの表現は独自のものとして受け入れられるようになった。とにかく旺盛な制作力とその量には驚かされる。生涯の目標と日々の日課が徹底しているのだろう。

近年、その骨格となっているのが今回の受賞作『STREET RAMBLER』だ。2001年、東欧の旧社会主義国ブカレストを撮影して以来、自らの都市論の形が見え始めた。資本主義と二項対立していた社会主義の崩壊が、世界を考えるうえでどうしても気になっていた。そして資本主義を象徴するニューヨーク、東側陣営の盟主であったモスクワというように7つの都市を選びだした。

これらの都市は、過去多くの写真家が挑み、優れた仕事を残してきた。中藤さんはそのことにも敬意を払い厳かな気持ちで立ち向かった。

まず、街に風土に人々に同化し、ひたすら歩く。すると予期せぬ光景やそこに生きる人々の真の姿が見えてくる。いわゆるゾクゾクする瞬間である。そうなる頭ではなく体感でシャッターを切った。そして最終工程となる印画作業にはさらにこだわった。粗い粒子の白黒のハイコントラスト。見る人にストレートに訴えかける迫真の焼き。これこそが中藤さんの真骨頂と言われている。

一見、既視感を誘うが、熟視すると不可思議な未知の都市像が広がってくる。この写真群は観念ではなく、体全体で感じとるといえるのはどうだろう。体温や匂いさえも感知できたらもう言うことはない。

そんな都市論の基準となっているのが、人工物に囲まれた愛すべき故郷・東京だ。これからも何千何万のまだ見ぬ都市の一葉が世に送り出されていく。中藤さんの「都市愛」の旅はまだまだつづくのである。

(周南市美術博物館館長 有田順一)



第24回 林忠彦賞 「STREET RAMBLER」 中藤 毅彦 なかふじ たけひこ

— 授賞式並びに祝う会・受賞記念写真展を開催 —

■授賞式並びに祝う会

4月17日(金)
コートヤード・マリオット銀座東武ホテル(東京)

受賞者の中藤毅彦さんに、青木龍一・周南市副市長より、賞状と目録、ブロンズ像が授与されました。

授賞式には、細江英公選考委員長、大石芳野副委員長をはじめ、日本写真家協会会長田沼武能氏や歴代受賞者の方々など、大勢の写真関係者が列席し、受賞を祝いました。



受賞の喜びを語る中藤毅彦さん



青木龍一・周南市副市長より表彰状、副賞、ブロンズ像が授与されました

■受賞記念写真展

4月17日(金)～23日(木)
富士フィルムフォトサロン(東京ミッドタウン)

受賞作「STREET RAMBLER」を展示。中藤さんの力強いモノクロームの作品は国内外で人気があり、東京展でも連日多くの方が観に来られました。



会場入口
(東京ミッドタウン、フジフィルムスクエア)



今後の
受賞記念
写真展

■周南展 林忠彦の故郷

周南市美術博物館
5/15(金)～24(日)
9:30～17:00 月曜休館

5/16(土)10:30～トークショー「都市を写す」
話し手：中藤毅彦
聞き手：有田順一(周南市美術博物館館長)
定員：40名(先着順)
電話申込：TEL 0834-22-8880

■東川展(北海道) 写真の町・東川

東川町文化ギャラリー
11/29(日)～12/13(日)会期中無休
10:00～17:30(最終日は15:00まで)

春のサロンコンサート

たくさんのご来場ありがとうございました。

毎年恒例の春のサロンコンサートは、4月11日(土)、グループひびきによる和楽器アンサンブルの演奏をお届けしました。午前、午後の部ともに箏、尺八等が「春の海」などを優美に奏で、立方(日本舞踊)の美しい舞もあり、会場はおおいに魅了されました。



特別出演された、若手プロ尺八奏者、田嶋謙一さんによる演奏も美しく、華やかに締めくくられました。

滝平 二郎



周南市美術博物館開館20周年記念

滝平二郎の世界展

— 帰りたくなるふるさとがここにあります。 —

6月12日(金)～7月26日(日)

財団会員には、6月号発送の際に招待券をお送りします。(家族会員は一家族につき2枚)

(モチモチの木) 1971年 ©JIRO TAKIDAIRA OFFICE Inc.

周南市美術博物館 その他の5月の展覧会 午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで) 入場無料

- 日本光画会山口支部発足10周年記念写真展 5月2日(土)～4日(月・祝)(最終日は午後4時まで) [展示室1]
- 第43回山口県写真作家集団会員展 5月6日(水・休)～10日(日) [展示室1]
- 第13回宝会書法展 5月28日(木)～31日(日)(最終日は午後4時まで) [展示室1・2]

宮崎 歯科

徳山動物園前・TEL (0834) 31-7230



夜の8時まで診療
ただし土曜日は7時まで
(日・月・祝は休診)

歯の健康大切に!

美博クイズ～!(16) もんだい

下の写真は何をしているところでしょうか?



こたえはどこかのページにあるよ。さがしてみよう!



周南市美術博物館 常設展示室

■常設観覧料：一般 200円(160円) 大学生等 100円(80円)
()内は20名以上の団体

※18歳以下および70歳以上無料 ※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳等をご持参の方とその介護の方は無料
林賞受賞記念写真展の会期中(5月15日~24日)は無料
※ただし5月4日(月・祝)開館、5月7日(木)休館

■月曜日休館

展示室5 まど・みちおコーナー

現在の展示は5月31日(日)までです

まど・みちおの抽象画は、画用紙にボールペンや水彩絵の具、クレヨンなどを使って描かれています。何重にも塗り重ねられてできあがった独特の色合い。まど・みちおの「色の世界」をお楽しみください。



展示室5 徳山の歴史 特設コーナー

徳山毛利家の端午飾り

5月31日(日)まで開催中

徳山毛利家には、明治41(1908)年生まれ12代元靖氏の初節句にあたって、元家臣や他家から贈られた武者人形が伝えられています。



上:神功皇后と武内宿禰
下:児玉秀雄(児玉源太郎の長男)から贈られた白馬

展示室3 コレクション展示室

戦後70年 — 宮崎進の仕事 —

5月31日(日)まで開催中

1922年(大正11)、徳山市御弓町に生まれた宮崎進は、4年にわたるシベリア抑留を経て帰国。その後、画家として活動を始めます。戦後70年の歴史と重なり合う画家としての人生は、宮崎進にしか描けない作品を生み出しました。耐え難い戦争体験を生きる希望へと昇華させるまでの壮絶な道のりを、その画業を通してふり返ります。



自画像 1953年 油彩・キャンバス

展示室4 林忠彦記念室

アメリカ1955 NEW YORK

5月1日(金)~6月30日(火)

第24回林忠彦賞受賞記念写真展「STREET RAMBLER」の開催にあわせ、林忠彦のニューヨークでのストリートスナップを「アメリカ1955」より紹介します。ぜひ見比べてみてください。



ニューヨーク ウォール街

開館20年を迎えて

20年間の作品がやってきました

周南市美術博物館では、本紙3月号でも紹介したように、これまでに有料の展覧会を67回開催し、様々な作品や資料を展示してきました。今回はその中から、当館にやってきた国宝や重要文化財、重要美術品について振り返ってみたい。

まず最初は、平成10年度に開催した「大和まほろば展—大和王権と古墳—」。藤ノ木古墳出土の棘葉形杏葉などの馬具や須恵器、島の山古墳出土の石製合子などの重要文化財が展示されました。

平成12年度に開催した「絵画への招待—人・街・宇宙—」は、東京国立近代美術館、京都国立近代美術館、国立国際美術館所蔵の洋画を紹介した展覧会で、重要文化財「エロシエンコ氏の肖像」(中村彝作)が展示されました。

また平成15年度開催の「川端康成文豪が愛した美の世界」では、国宝の池大雅「十便図」、与謝蕪村「十宜図」、浦上玉堂「凍雲節雪図」が展示されています。

近いところでは、平成25年度開催の「茶の風景 出光美術館名品展」で、重要文化財「赤染兔文香合」(本阿弥光悦作)、「絵唐津葦文水指」、重要美術品「山水図」(伝周文)などが展示されました。

国宝級の資料を展示するためには、温湿度や照度、空気環境、警備や防災体制などがきちんと整っていないと決まりごとが多いのも、大切な資料を後世に伝えていくために必要なことです。この点をご理解いただき、これから素晴らしい展覧会を開催できるように、皆さまと一緒にこの館を創り上げていきたいと考えています。

(森重祥子)



茶の風景展より「赤染兔文香合」



川端康成展より「凍雲節雪図」



絵画への招待より「エロシエンコ氏の肖像」



大和まほろば展より「棘葉形杏葉」

美博クイズ~!(16) こたえ

チラシやポスターの発送作業

展覧会のことをより多くの人に知ってもらうために、チラシやポスターを作って送るのも美術博物館の大切な仕事なんだ。学校や図書館など、700か所以上の場所に配っているんだよ。



えころじ
日通の
えころじ
0120-154022
www.nittsu.co.jp/hikkoshi/

ART and HISTORY

インフォメーション

- 周南 ■周南市文化会館 TEL0834-22-8787
 - 「爽やかな風 みんなでHANAそう」池坊徳山支部青年部花展 5/17(日)
- 周南市美術館 TEL0834-22-8880
 - 日本光画会山口支部発足10周年記念写真展 5/2(土)～5/4(月・祝)
 - 第43回山口県写真作家集団会員展 5/6(水・休)～5/10(日)
 - 第24回林忠彦賞受賞記念写真展 「STREET RAMBLER」 5/15(金)～5/24(日)
 - 第13回宝会書法展 5/28(木)～5/31(日)
- 周南市郷土美術資料館 TEL0834-62-3119
 - 尾崎正章常設展「四季を感じて — 秋吉台を描く」 ～5/31(日)
 - コレクション展 ～5/31(日)
- 防府 ■毛利博物館 TEL0835-22-0001
 - 「企画展」端午 ～5/24(日)
- 山口 ■山口県立美術館 TEL083-925-7788
 - 【特別展】篠山紀信展 写真力 THE PEOPLE by KISHIN ～6/14(日)
- 中原中也記念館 TEL083-932-6430
 - 「企画展1」「中原中也賞の20年」 ～7/26(日)
- 萩 ■山口県立萩美術館・浦上記念館 TEL0838-24-2400
 - 【特別展】2015年NHK大河ドラマ特別展「花燃ゆ」 ～5/24(日)
- 萩博物館 TEL0838-25-6447
 - 【特別展】長州男児、愛の手紙 吉田松陰から盟友小田村伊之助へ 久坂玄端から妻文へ ～6/21(日)
- 長門 ■香月泰男美術館 TEL0837-43-2500
 - 「企画展」香月泰男 版画展 — エッチング・石版画(リトグラフ)・木版画 — ～6/1(月)
- 下関 ■下関市立美術館 TEL083-245-4131
 - 【所蔵品展】 特集1:「線」のこぼれ — 芳崖、フジタを中心に 特集2:お披露目! 新コレクション ～5/17(日)
- 島根 ■島根県立石見美術館 TEL0856-31-1860
 - 「企画展」HANAE MORI HAUTE COUTURE 森英恵 仕事とスタイル ～6/8(月)
- 広島 ■広島県立美術館 TEL082-221-6246
 - 【特別展】スペイン・リアリズム絵画の異才 磯江毅 — 広島への遺言 — 展 ～5/24(日)
- 広島市現代美術館 TEL082-264-1121
 - 【特別展】赤瀬川原平の芸術原論展 1960年代から現在まで ～5/31(日)
- ひろしま美術館 TEL082-223-2530
 - 【特別展】毛利博物館所蔵「毛利家の国宝・至宝展」 国宝「雪舟筆」山水長巻」と大名文化でみる日本伝統美の世界 ～5/31(日)
- 広島県立歴史博物館 TEL084-931-2513
 - 「企画展」尾道・浄土寺の寺宝展 — 瀬戸内の精華 — ～6/7(日)
- 福岡 ■九州国立博物館 TEL050-5542-8600
 - 【特別展】九州国立博物館開館10周年記念特別展 戦国大名 — 九州の群雄とアジアの波瀾 — ～5/31(日)
- 北九州市立美術館・本館 TEL093-882-7777
 - 【コレクション展Ⅲ】特集 版画芸術への誘い【後期】 4/29(水・祝)～6/28(日)
- 北九州市立美術館・分館 TEL093-562-3215
 - 「企画展」生誕100周年 トー・ペヤンソン展 ～ムーミンと生きる～ 5/23(土)～7/5(日)
- 福岡市美術館 TEL092-714-6051
 - 【特別展】アンコール・ワットへのみち 神々の彫像 ～6/14(日)
- 福岡市博物館 TEL092-845-5011
 - 【特別展】宮沢賢治賞受賞記念 藤城清治展 愛の贈りもの ～5/24(日)

2015年、開館20年を迎えます。

～永源山公園の中にある美術館～

周南市郷土美術資料館・尾崎正章記念館



9時30分～17時(入館は16時30分まで)
 観覧料:一般200円(160円) 学生100円(80円)
 ()内は20名以上の団体 ※18歳以下および70歳以上無料
 ※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳等
 をご持参の方とその介護の方は無料
 休館日:月曜日 ※ただし5月4日(月・祝)開館、5月7日(木)休館

■尾崎正章常設展
 「四季を感じて — 秋吉台を描く」
 ■コレクション展

5月31日(日)まで開催中!

尾崎正章常設展

画家を志して以降、静物画や女性像を描いてきた尾崎正章が、はじめて風景画に取り組んだのが秋吉台の連作です。



尾崎は1958年(昭和33)の秋に初めて秋吉台にスケッチに出かけています。冬の荒涼とした秋吉台に言葉では表現できない魅力を感じ、大地にキャンバスを立て、風に吹かれながら制作しました。一方、山焼きの後の水墨画のような美しさや萌えいずる新緑の鮮やかさにも感動を覚え、作品に表現しています。

尾崎が描いた秋吉台の四季をお楽しみください。



平野敏子

コレクション展

尾崎正章と同じ水会で活躍する寺井力三郎、平野敏子の作品と版画家・土居 健の作品を紹介しています。



土居 健



寺井力三郎

…………… 27年度のスケジュール ……………

- 6/20(土)～ 8/30(日) 尾崎正章常設展「各地を旅して — 灯台を描く」
- 6/20(土)～ 8/23(日) 青山英和作品展(仮称)
- 9/26(土)～12/ 6(日) 尾崎正章常設展「ふるさと福川を描くI」
- 9/26(土)～11/29(日) 中川十七江作品展(仮称)
- 1/16(土)～ 3/13(日) 尾崎正章常設展「ふるさと福川を描くII」
- 江藤千代子作品展(仮称)

目に飛び込んでくる3つの色「紺碧色」は瀬戸内海の静寂を、「茜色」は目覚ましい勢いで伸びる瀬戸内の産業と文化を、「白」は透明な光で、瀬戸内海を望む清らかな人々の心が表現されています。黎明とは夜明け、新しい文化や時代の始まり。静かなエネルギーを感じるこの作品ですが、西から光が射し込む時間には、やさしくのびる光で柔らかな表情を見せてくれます。いつまでも眺めていたい私の大好きな場所です。

文化会館にお越しの際にはぜひ、ホールロビーの西側に目を向けてみてください。(西村真美)

ミニコラム
 ガス燈

新緑の美しい5月。芽吹いたばかりのやわらかい木々の葉は風にそよぎ、その隙間からこぼれる陽の光がとてやさしく感じられます。

四季折々の自然の変化に富む日本には、平安時代から親しまれてきた「和色」と呼ばれる美しい伝統色があります。山吹色や牡丹色など、どの色も名前を聞いただけでイメージが浮かび、日本人の心の豊かさを感じさせます。春に萌え出た若葉の様な芽えた黄緑色「萌黄色」は、まさにこの季節の色ですね。

皆さんは、文化会館内にも和色を感じる素敵な空間が、ホールロビーにある事をご存じでしょうか。それはガラスアーティスト三浦啓子さんによる「瀬戸内海の黎明」と名付けられた美しいステンドグラスです。穏やかな瀬戸内海の風景が、大胆な構図と配色でデザインされた作品です。